
台風に巻き込まれてシーズン 2

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

台風に巻き込まれてシーズン2

【Nコード】

N1142S

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

season2がやってきました。全20話。殺沢仁枇杷とは別の人物の存在が影として登場する。さらに複雑化していく世界間に注目だ。

s e a s o n 2 第一話 春日部に現れた謎の生命体（前書き）

s e a s o n 2 突入！謎の生命体の正体とは・・・

Season 2 第一話 春日部に現れた謎の生命体

カドルスは、春日部にある監視カメラのビデオを借りていた。

実は、ここ数日の間、謎の黒い影が人々を襲い3人が重傷、5人が軽傷する事件があった。

目撃証言では、悪魔のような姿をしていたと言われている。

モコと同じUMAではないのか？

スニッフルズとトゥーシーとモコと西南薫が映像を解析している。

「いつ見ても怖いよ。此の黒い影！」

トゥーシーは、怖がっていた。

「モコ様、黒い影に関して何か分かりますか？」

「僕にもわからない。UMAではないような気がする。こんな高度な能力を持っているかもしれないけれど・・・」

西南薫とモコは、黒い影が何なのか分からなかった。

スニッフルズは、映像が混沌としているので綺麗な画質に変換した。

「これって、いったい何者なんだ？」

黒い影が悪魔の姿である。

モコは、みんなを招集した。

「なにその映像、不気味。」

ペチュニアの言うとおり、不気味な姿をしている。

スニッフルズは、世界中の映像を解析した結果、悪魔らしきものが多数発見された。

「まずは、新宿の公園の映像だね。」

フレイキーが、左上の所を注目した後、フリッピーの後ろに隠れた。

「これだけではないんだ。別の映像、イギリスのロンドンにあるビツクベンの映像も見てよ。」

悪魔が時間を狂わせていた。

「何というやつだよ！時間を勝手に書き換えたら、イギリスの人が困るよ。」

「確かに。」

いくつかにも及ぶほどの悪魔が発見された。

突然、緊急アクセスが届いた。

「誰からだろう?。」

「セルインジー・キリストとケン・スザンロだ。」

「殺沢仁枇體以外にも、殺沢の者がいる。しかもそいつが人間界にデビルギアの下級戦士たちを繰り出した。数は4千万。」

みんなは驚いた。

「四千万!!」

カドルスは一つ気がついた。

「もう一人の殺沢って?」

「忘れたのか? 閻幻想郷の前の独裁者、殺沢^{さいさわ}怜焼だよ!」

「確か、僕が正義の鉈で封印したはずじゃ?」

「封印が何者かに解かれた。しかも怜焼は、仁枇體より少々強い。」

セルインジー・キリストは、植物界から連絡があつた。

「プランツナイトを、派遣するそうだ。」

「プランツナイト?」

「プランツナイト、トウダイグサ科の者たちのことで、絆の力と勇気の力の塊でできた騎士団みたいなものだ。」

デビルギア対策として派遣されたプランツナイト達は、春日部市の住民を避難させていた。

「今から、デビルギアという怪物駆除を行いますので、別の町に避難していただきます。」

タカトウダイとハツユキソウが誘導していた。

「なんでだろう、僕たちがいたらまずいのか？」

「だと思っよ。」

二人の子供が、プランツナイトが警戒態勢の姿を見てから走り出した。

デビルギア500体がプランツナイト達に襲いかかった。

タカトウダイの武器は、三つの穴から特殊な銃弾を発砲できる銃とメリケンサックを所持している。

ハツユキソウの武器は、盾と二枚刃の剣を所持している。

「半分は、俺が倒す。ハツユキソウは、もう半分为。」

「了解！」

ハツユキソウは、盾を利用してデビルギアを混乱させて、二枚刃の剣で串刺しにしたり、体を切断したりしている。

タカトウダイは、射撃でデビルギアを射殺しまくっていた。

「玉切れか、ならば俺が玉となる。」

銃からメリケンサックに持ち替えて、デビルギアを攻撃した。

しかし、デビルギアの数がどんどん増えていた。

「数が多くなっているぞ。」

「ユーオルビアベジャリン！」

爆発音とともに、デビルギア263体が消滅した。

「トウダイグサ殿。」

「援護しに来た。住民は全員避難させたか。」

「ほかのプランツナイトが避難させています。」

「そうか、トウダイグサクロス来い！」

トウダイグサクロスとは、トウダイグサの武器である。

十字架の形をした剣で、希望の力をまとっている。二丁の銃に分離も可能であり、更には槍の形に変形することもできる。

トウダイグサは、トウダイグサクロスでデビルギアを切り刻んだ。

「苦しみに耐えられるのは、絆の力のみだ。」

トウダイグサは、デビルギアにトウダイグサクロスを二丁の銃にして発砲しまくった。

カドルス達にも、デビルギアの脅威が近づいていた。

しかし、カドルスは魔法陣のナイフでデビルギアを殲滅していた。

「お前たちの行動をすでに気が付いているんだよ。」

ビットワールドでは、あることが終わったため、人間界に戻ってきた。

「ダークヘルロン、策があるのか。」

「デビルギアは、そもそも我々ビーボのデータと君達のパートナーであるデジモンのデータがまじりあった存在。消滅することもある。蒼いクリスタルを出すこともある。」

蒼いクリスタルとは、ビーボが力尽きると透明になり最終的にクリスタルを残す。実質死んでいるわけではない。ビットワールドに蒼いクリスタルを戻せば復活する。

デュークモンは、納得していた。

「来たぞ。」

デビルギアは、変形して高速戦闘機になった。

「早い！」

「デビルギアのデータをかいせきしなおす必要があるかもしれないね。」

トーヤが冷静にそのことを言った。

「トーヤ、離れていてくれ。ダークフロスチュア！」

デビルギアの攻撃をダークヘルロンの攻撃が止めた。

「ホーリーエンド！」

エスト5の攻撃が発動した。

「良いぞ、エスト5。」

「セイドー、動きが早すぎる相手に対してどう対処すればいいんだ。」

「確かに早すぎる。」

「早い相手なら、僕達に任して。」

8人の少年少女と変形戦士がいた。

大と太一は、彼等を見た。

「何なんだ、あれは。」

「ENERGON EVOLUTION」

「コンボモン進化、オプティマスプライモン！」

「マグナスモン進化、ゴッドマグナスモン！」

「ジェットモン進化、ジェットファイアモン！」

「バスターモン進化、ロードキングモン！」

「ガーシエルモン進化、ガードハイドモン！」

「ソニックモン進化、ソニックボンバーモン！」

「ポップモン進化、ベクタープライモン！」

「POWER SET EVOLUTION」

「バンクモン進化、レッドアライトモン！」

デビルギアは、変形した。

「やはり、そういうことか。」

「行くぜ！オプティマスプライモン！」

「ああ、大次！」

「UNIVERSE OF EVOLUTION」

「ユニバースオブエヴォリション！」

「オプティマスプライモン！」「ゴッドマグナスモン！」「ロード
キングモン！」「ジェットファイアモン！」「ジョグレス進化！プ

ライマスモン！」

「どのデータにも入っていない。新しいデジモン？」

デビルギアは、プライマスモンを囲った。

「ベクターセイバー！」

デビルギア45体が消滅した。

「ジェットファイアモンの翼が、剣になっているのか。」

「みんな下がっていてくれ。」

「みんな下がって！」

「ユニバース・ゴッドキャノン！」

デビルギアを一掃していくプライマスモン。

「マグマバースト！」

プライマスモンの後ろを攻撃しようとしたデビルギアをダークヘルロンが一掃した。

拓也は、あることに気がついた。

「これって、もしかして光と闇の正義の力。」

「えっ？」

「これが、悪の力として利用された時があったね。でもこれは正義だ。」

「トライデントバッドバスター！」

「ダーク・スチューデント・ドリーム！」

デビルギアが全滅した。

「よしっ、急ごう！」

デビルギアが東京の町を埋め尽くしていた。

トウシーの能力である、雷の力もデビルギアを倒していくものの数では圧倒されていた。

s e a s o n 2 第一話 春日部に現れた謎の生命体（後書き）

次回 第二話 大都会大パニック！守り抜けシャビの覚醒。 お楽しみに！

s e a s o n 2 早々、長い話になってしまいました・・・どうでしたか感想をよろしくお願いします。

第二話 大都会パニック！守り抜けシャビの覚醒！（前書き）

ビーボは、進化ではありません。覚醒です。

第二話 大都会パニック！守り抜けシャビの覚醒！

東京は、デビルギアのアマリの数に避難する人で慌しい状態であった。

「数が多いな。」

「仏教魔法がいくつあっても足りなくなってくるぞ。」

セルインジー・キリストと牟陀は、苦渋の戦いを要されていた。

「助太刀いたす。」

ダークナイト・オシリスと竜暫も加わった。

「すまないな。稔死碎楼の神達。」

カドルス達もデビルギアを倒すことを急いでいた。

「元素針！」

モコの攻撃がデビルギアに命中して、デビルギアは消滅していった。

「太陽殺破！」

サンバッタもデビルギアを倒しまくっていた。

「奇襲もほどにしてくれよ。」

カドルスの愚痴は、誰にも届かなかった。

みんながデビルギアを撃退するのに必死だったのである。

セルインジー・キリストは、闇十字を上空に出した。

「十四の大罪よ。悪魔たちを蹴散らし給え！」

本来なら、七つの大罪が有名だが、それに七つを加えた十四の大罪とは一体……

14個の闇十字に文字が浮かんだ。

怠惰、憤怒、強欲、暴食、嫉妬、傲慢、色欲、横暴、天才、狂気、
放置、隠蔽、殺欲、銀望。

14の大罪がデビルギアに襲いかかった。

デビルギア4231体が消滅した。

「数が多すぎて14の大罪でも、効果が見られない。」

杓陀は、14の大罪の力を持つ物を司るの者を眠らせている巻物を取り出した。

「14の大罪を司る式神よ。この世界に光臨神しなさい。」

「怠惰の紅蓮弟體ここに。」

「憤怒の嘘飾蠅ここに。」

「強欲の囚而怨ここに。」
トライシオン

「暴食の麻墮墓ここに。」
メタボ

「嫉妬の悪戸鑑陰ここに。」
ワルドラン

「傲慢の月蝕盲聾ここに。」
ゼヴァリオン

「色欲の曼ここに。」
カテハリ

「横暴の凍結麻痺ここに。」
ダークサラック

「天才の頭脳陶磁ここに。」
セフミオック

「狂気の怒涛三唱ここに。」
ムメティーヴァ

「放置の放棄万歳ここに。」
ネグレクトサタン

「隠蔽の嘘隠陰異ここに。」
カタルシスエオ

「殺欲の利点殺戮ここに。」
モンスターヤトロハ

「銀望の世例葡ここに。」
セレブ

14体の式神が現れた。

「君達の任務は、此处にいる悪魔を葬ることだ。」

「卒陀さま、彼等はデビルギアという名前だそうです。」

「名前があるとは、不覚だった。よく名前を覚えてくれた。」

「いくぜ、我が14の罪を司る者の力を。」

「闇罪壺拾余之舞（ダーククライム・フォーティーン・オブロスト）！」

14の式神は、十字架を背負ってその十字架を振り回した。

デビルギアを思いつきり翻弄して消滅させていった。

十字架が振り回されたところから八卦の印が現れた。

「これが仏教とキリスト教が最後にたどりついた答えつまり、宗教の合体こそが最強の力を発揮することを知った。」

セルインジー・キリストと牟陀は、二人で言った。

「そうだ。デビルギアなぞ、所詮弱いのだからな。」

ゼヴォリオンは、八卦の印の3つを弓矢の矢に変えた。

クロスアローツインアタック
「十字生動義務！」

デビルギアの数がどんどん減っていた。

デジモンとビーボチームもやっと東京に着いた。

トーヤは、ある人物を見た。

「サツキさんですか。」

覚えている人は知っている。サツキは、ビーボを保護していた。

サツキは、トーヤにビーボランリーを渡した。

「私のビーボは、デビルギアにやられた。あなたのビーボなら覚醒させることでデビルギアを倒せるはず。」

「僕にできるでしょうか？」

大はトーヤに言った。

「お前の力を、みんなとシャビは信じているんだ。きっとお前もシャビを覚醒できる。」

「やってみます！」

「シャビ覚醒！」

シャビは、姿が変わった。

「覚醒完了！シャビ2！」

トーヤは、シャビの姿を見た。

「これが、シャビの覚醒した姿。」

トーヤとサツキにデビルギアが襲いかかってきた。

「トラッシュファイニッシュ！」

シャビ2の技がデビルギアに命中した。

デビルギアは消滅した。

東京からデビルギアがすべて消えうせた。

「戻れ！14の大罪。」

「了解。」

カドルス達は、くたくたになっていた。

セルインジー・キリストと杵陀とダークナイト・オシリスと竜暫は、握手を交わしていた。

「14の大罪を司る式神を拝見できたことが何よりの光栄でした。」

「そうだな。」

第二話 大都会パニック！守り抜けシャビの覚醒！（後書き）

次回 第三話 選ばれし者達との遭遇。お楽しみに！

第三話 選ばれし者との遭遇

カドルス達は、戻ることにした。

「フレちゃん、疲れたね。」

「フリッピーさん、本当にくたくたなのです。」

スプレンドイドは、フリッピーとフレイキーの姿に嫉妬を浮かべているがデビルギアを倒した時の疲れもあったため、無駄に争わないでおくことにした。

しかし、小声でつまらない口調をして言った。

「今回だけは、大目に見てやる。」

デビルギアのデータを集めに集めたスニッフルズ。

おんぼろバスで基地に戻ることに30分・・・

基地に戻ったみんなはくたくたになっていた。

スニッフルズは、データの解析をしていた。

デビルギアの謎は、どうやらビーボとデジモンのデータに秘密が隠されているようだ。

しかし、それがなんなのかはスニッフルズも分からないでいた。

一方、選ばれし者達は・・・

「デビルギアっていったい何なんだ。」

「よくわからないけど馬鹿強いよなアニキ。」

「ああ、デビルギアを殴った時、デジソウルが出たというところが驚いた。」

「ビーボのはずなのに。どうしてだろう。」

ミオがアスミンに言った。

「確かに、ビーボという解析になっていたのにデジモンでしか出ないデジソウルが出るなんておかしいよな。セイコーはどう思う。」

「僕に聞かれても、でも此の考察はできなくはないと思うんだ。みんなを呼んできてよ。此の考察はたぶん重要だと思うからさ。」

アスミンはみんなを呼んだ。

「セイコー、読んできたよ。」

「みんなが戦ったデビルギアのことだけど、もしかしたらビットワールドとデジタルワールドの関係性に原因があると思うんだ。それがデビルギアの誕生につながっているとしたら二つの世界に何か起きた証拠だと思う。」

ベン達は、こっそり帰って行った。

しかし、タイキと大次とコンボモンに追われていることに気がつかなかった。

ベン達の帰還にみんなが喜んでいたのだが・・・

「君たちはいったい何者なんだ。」

ついに、ハピツリと選ばれし者達が合流してしまった。

第三話 選ばれし者との遭遇（後書き）

次回 第四話 デビルギアの正体を探れ。お楽しみに！

第四話 デビルギアの正体を探れ

選ばれし者たちとハピツリのメンバーは、緊迫した表情を浮かべた。
そこにベンがやってきた。

「この人たちも、仲間だよ。」

そのあと、みんなが話した謎の生命体デスカイダの真相に迫ろうと
考えていた。

しかし、データが足りないことに気が付いた。

「エストの言ったことでもこの程度しか集められないのか。」

「もう少し、戦っておく必要があるな。」

太一たちにとつても、デビルギアが存在は厄介だということに危機
感を募らせていた。

そんな中……

「カストロフィーカノン！」

一つの紫の球がデビルギアを一掃した。

「こいつ、ダークネスウェーブのジェネラル。あの連合軍レジエ
ンドフレンズのメンバー。」

デビルギアを陰で操っているデジモンがいた。

「いたぞ。影が」

「タイムハッキングミサイル！」

一つのミサイルが五秒後、そのデジモンに当たり消滅した。

「これで全部だな。」

「その様だ。帰るのかサイクロン？」

「ああ、連合軍のみんなにこのことを話さなければならない。ディアボロモン、クロスローダーの中に入れてくれ。」

「分かったサイクロン。」

ディアボロモンを黒みのかかった青色のクロスローダーの中に入れたサイクロンは、移動手段としてのデジモンを繰り出した。

「リロード、メタルヴァンデモン。」

「サイクロン、そろそろ行くのですか。」

「戦闘機に変形して帰るぞ！」

「了解。デジタルトランスフォーム！」

サイクロンは、戦闘機に変形したメタルヴァンデモンの中に入って連合軍のところへ帰って行った。

それをひそかに見ていた謎の生命体デビルギアがいた。

謎の連合軍レジエンドフレンズ、メンバー数は13名ほどいるが、その構成がまだ謎である。

そして、タイキやキリハが知らない更なるジェネラル。サイクロンとはいったい何者なのか？

ますます展望が分からなくなる台風に巻き込まれてにぎろろ期待！

第四話 デビルギアの正体を探れ（後書き）

次回 第五話 補足できる状況と遭遇した謎のジェネラル。お楽しみに！

第五話 捕捉できる状況と遭遇した謎のジェネラル

ラッセルとフリッピーは、デビルギアの位置を確認していた。

「あんなところに、デビルギアを確認。」

ベン達は、デビルギアを倒すために立ち上がった。

「カドルス！」

「これで行くぜ！」

ベンは、ジェットレイに変身した。

デジモン達は、究極体クラスになり、ビーボ達は、5クラスの強さでデビルギアに攻撃し始めた。

「僕は、覚醒しなくても強いもんね。」

フリッピーの投げたブーメランナイフがデビルギア6体を消滅させた。

「フリッピーさん、すごい！」

「やはり、私でもかなわないよ。君の行動力には。」

「英雄、^{スフレンディッド}上から目線な発言はやめろ！」

口笛を吹きながらとぼけているスフレンディッドであった。

「プライムストーム!」「インパクトレーザー!」「ビットカノン
スパークバースト!」

しかし、この技を跳ね返すほどの強敵がいた。

「何者だ?」

「吾は、暗黒悪夢の帝、ベクトデビルキングモン。」

ベクトデビルキングモン 超究極体 必殺技「オールバースト
デスフューチャー」

「終わらせてやるここで。」

「カストロフィーカノン!」

紫の球が、勢いよくベクトデビルキングモンに命中した。

「ぐわあああ!なに奴?」

「あつ、あれはディアボロモン!」

「こんなときになぜこいつが。」

「リロード、ムゲンドラモン。」

ムゲンドラモンがベクトデビルキングモンを踏みつぶした。

「黒き炎と偽悪の光を敵に見せつけてやれ!それがダークネスウエ

「ブ
だ！」

第五話 捕捉できる状況と遭遇した謎のジェネラル（後書き）

次回 第六話 恐怖のデジクロス！ディアドラモン。お楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1142s/>

台風に巻き込まれてシーズン2

2011年10月9日22時53分発行